

VS1508TとVE200Rで番組配信システムの機材調達コストを削減



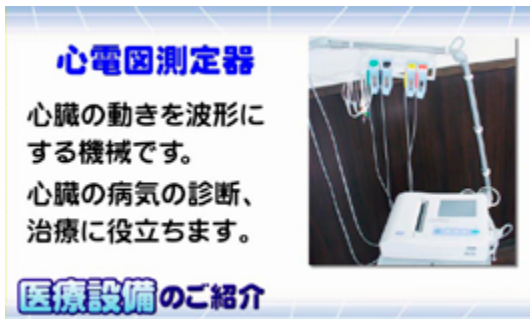
[会社名] 株式会社メディカスタッフプロモーション

[公式ページ URL] <http://www.medica-staff.com>

株式会社メディカスタッフプロモーション(以下、MSP)は、新潟市に本社を置き、医療分野におけるアウトソーシングビジネスや、メディア・イベントのプロデュースからデジタルサイネージまでの多岐にわたって、医療施設経営を支援するためのサービスを提供している企業である。

MSPはデジタルサイネージ事業の一環として、「Medicom(メディコム)」という番組配信システムを手掛けている。これは、600を超える医療・健康情報番組を提供する、日経BPマーケティング企画・制作のコンテンツライブラリー「待合くん」に加えて、病院・薬局がオリジナルで制作した番組を、院内や局内の待合室の大型ディスプレイに放映できるシステムだ。

このシステムは患者さんの待ち時間対策を目的として導入する病院や薬局が多いそうだが、こういった番組を待合室で放映することにより、待ち時間を利用して患者さんに医療の理解を深めてもらったり、健康への意識を高めてもらったりできるとあって、多くの医療施設で好評を博している。



番組配信システム「Medicom (メディコム)」コンテンツイメージ



導入前の課題

番組配信システムで使用する送信器・分配器・受信器の調達費用を抑えたい



担当:
株式会社メディカスタッフプロモーション
営業企画部長 朝賀利夫様

今回は、この番組配信システム「Medicom」を担当している同社営業企画部長の朝賀氏から、ATEN製品の導入の経緯についてお話を伺った。

この配信システムは、システム全体を制御するセットトップボックス1台に、送信器・分配器各1台を接続し、この分配器から分配されたオーディオ・ビデオ信号を、各ディスプレイに接続された受信器にカテゴリ5ケーブルで送信し、複数のディスプレイに同じコンテンツを同時に出力する仕組みになっている。このシステムの販売を始めたばかりの頃は、この送信器、分配器、そして受信器にはセットトップボックスを製造しているメーカーの推奨品を使用していた。

これらの機器は、さすがにメーカー推奨品だけあって、画質もきれいで相性問題もない。システム自体は順調に稼働して一見何の問題もないように見られたが、朝賀氏には一つ気がかりなことがあった。それは、システム全体の費用において、これらのデバイスが占めるコストが高い点だった。「システムの安定稼働」という最初の課題は難なくクリアできたが、今度は「調達機器のコスト削減」という新たな課題が持ち上がった。「セットトップボックスに接続しているこれらのデバイスを他社の製品に置き換えることで、機器の調達費用を抑えられないものか」と、朝賀氏は頭を悩ませていた。

購入のポイント

コンテンツの送信・分配は VS1508T で、受信は VE200R で実現。費用対効果の高さも決め手に



VS1508T (下段)
8ポートビデオ分配器

セットトップボックスに接続する機器をリプレースするのに要件を整理すると、必須となる条件がいくつか浮かび上がってきた。まず、このシステムの根幹ともなる要件であるが、1系統のオーディオ・ビデオ信号を離れた場所にある複数のディスプレイまで延長して出力できること。2つ目には、セットトップボックスの仕様に合わせて、ビデオポートにはD-sub15ピンのアナログVGAポートを搭載し、OSはWindows 7対応であること。3つ目には、ステレオオーディオで制作されたコンテンツの音声の出力が可能であること。そして、最も重要視したのは、これら3つの条件をすべて満たしながら、既存のデバイスよりもコストダウンできる点であったという。



VE200R
ビデオ分配器用レーザー

朝賀氏がATENを知るきっかけとなったのは、幕張メッセで開催された展示会「Interop Tokyo 2010」。そこでATENの製品カタログを入手し、分配器や延長器等のビデオ製品「VanCryst」(ヴァンクリスト)シリーズの存在を知った。

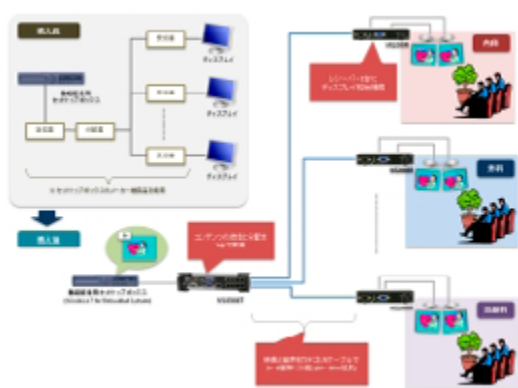
ATENの8ポートビデオ分配器VS1508TはMedicomを構成する送信器・分配器に、そしてビデオレーザーVE200Rは受信器にそれぞれ相当するのではないかと感じた朝賀氏は、早速ATENから評価機を借りて検証。検証した結果、この組み合わせでもMedicomの稼働には何の問題もない。その上、既存の構成品よりも圧倒的にコストパフォーマンスが高い。

「ATENのVS1508TとVE200Rの組み合わせでも、既存システムと同等の機能が提供できる」

— そう確信した朝賀氏は、迷わずATEN製品へのリプレースを決意した。

導入の効果

サービスの質を維持しながら、コスト・スペース・労力の各点で無駄のないスマートなシステムに



製品導入後のシステム構成(クリックで拡大)

Medicomの構成機器をATENのVS1508TとVE200Rに置き換えても、サービスの運用に何ら影響を与えることはなく、このシステムが導入された各地の病院・薬局で今日まで順調に稼働を続けている。利用者側はメーカー推奨品の使用時と同じようにコンテンツ配信のサービスを楽しむことができる一方、MSP側は利用者に提供するサービスの質を維持しながら利益率を上げることに成功。今回のリプレースによって本来の目的である「調達費の削減」という課題をクリアすると同時に、Medicomを双方にとってメリットのあるシステムにリニューアルすることができたのである。

また、これ以外にも、今回のリプレースに伴って思いがけない収穫があった。メーカー推奨品を使用していたころは送信器と分配器の両方が必要であったが、ATENのVS1508Tは信号の送信・分配の機能を兼ね備えているため、機器の設置スペースが1台分ですむ。しかも、レーザーであるVE200Rとの接続にはカテゴリ5ケーブルを使って配線するためセットアップがしやすい。メーカー構成品を使っていたころと比べて、設置作業にかかわる労力が軽減されるというメリットももたらされた。

ATENのVS1508TとVE200Rの組み合わせによって、コスト、スペース、労力のいずれにおいても無駄のないスマートなシステムを構築することができたのである。

感想・今後の展開

製品のコストパフォーマンスと ATEN のサポート力を評価。VanCryst シリーズの HDMI 製品にも期待



ディスプレイの裏側にセットアップされたVE200R
(壁面とディスプレイの間を上方から撮影)

ATEN製品のコストパフォーマンスの高さに満足しているのもさることながら、ATENジャパンのサポート面にも安心感が持てると、朝賀氏は語る。

「セットアップの際に機器の調子が思わしくないことがあり、ATENジャパンに連絡したのですが、速やかに対応していただき解決したので、本当に助かりました。デジタルサイネージ部門とATENジャパンが同じく都内にあるという物理的な近さも確かに安心感の理由の一つですが、設置や運用で困った時にも親身になってすぐに対応してもらえというのは心強いですね。」

HDMIの普及が加速する今日、朝賀氏もHDMI製品に対して強い関心を示している。今回は既存のセットトップボックスの仕様に適したVS1508TとVE200Rを採用することになったが、このセットトップボックスがHDMIに移行する日も遠くないだろう。その日に備えて朝賀氏は市場に出ている様々な製品を試してMedicomのHDMI化を模索している。しかしながら、その道は険しく、特にアナログVGAからHDMIへの変換で苦戦しているようだ。

今回導入したVS1508TとVE200Rを組み合わせた分配配信と同じことができるHDMI製品が、将来ATENからリリースされるようなことがあれば、真っ先に使ってみたい、と朝賀氏。ATENのVanCrystシリーズにおける今後のHDMI製品のラインナップにも大きな期待を寄せている。

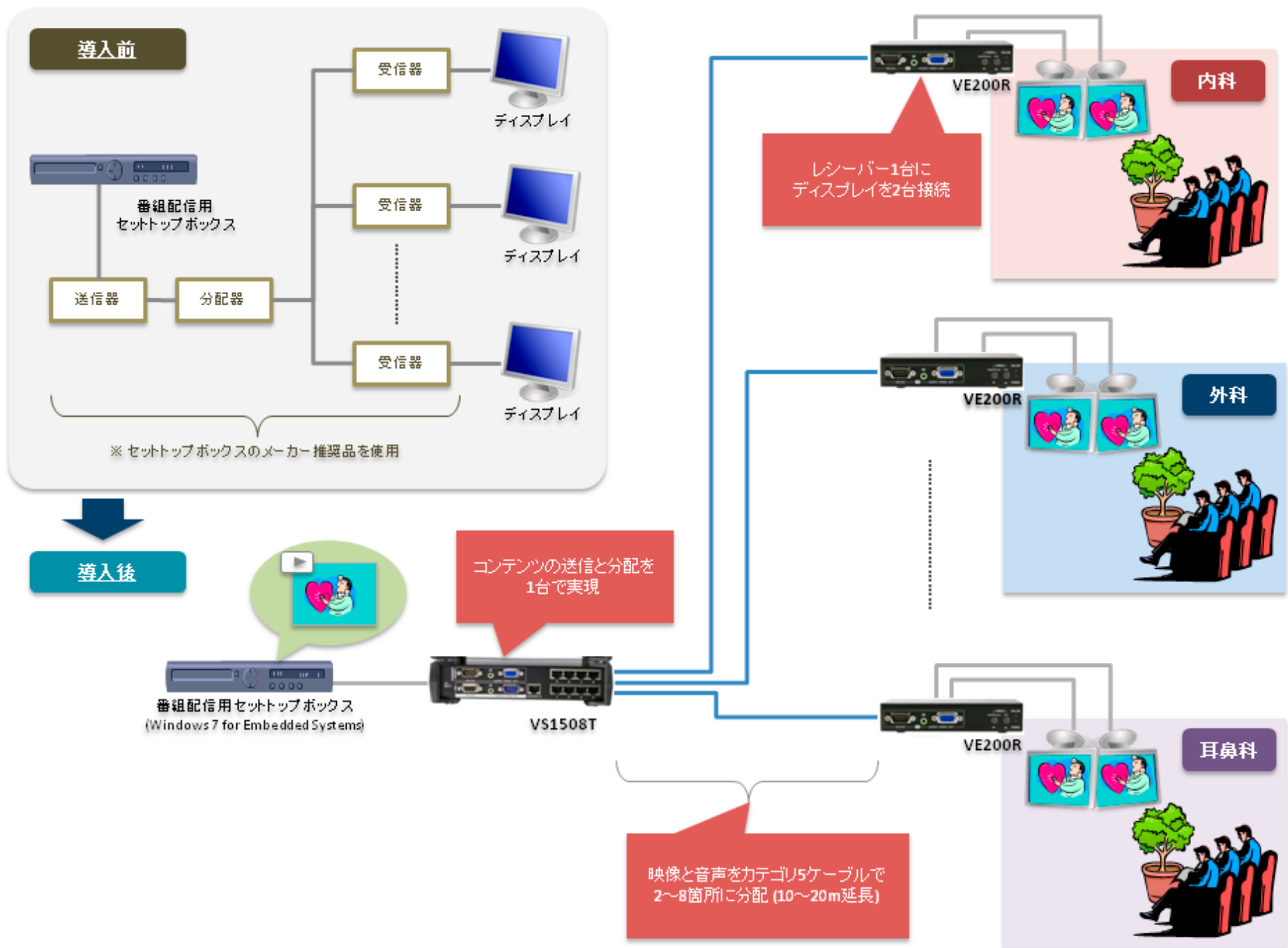


VS1508TとVE200Rで分配・延長された
番組配信システムMedicomのコンテンツ

会社概要

会社名	株式会社メディカスタッフプロモーション
場所	新潟県新潟市中央区米山5-1-35カレント・さくら5F (本社) 東京都世田谷区南烏山6丁目27-4 A101 (デジタルサイネージ事業部本部)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■エンベデッド事業 ■派遣・業務請負事業 ■デジタルサイネージ事業 ■在宅医療事業 ■有料紹介事業 ■医療に関する企画制作

構成図



本文に戻る